

総合支援センター便り

山陰労災病院 〒683-8605 米子市皆生新田1-8-1

TEL 0859-33-8189 (連携室直通)

FAX 0859-35-4348 (連携室直通)

令和5年 9 月
vol.1

創刊号

CONTENTS

- ～総合支援センターって何をするとところ？～
3つの役割と新棟移転後の住所
- ソーシャルワーカーのお仕事教えます！
- 退院支援をとおして...『貴重な5日間』

総合支援 センター

POINT

って何をするとところ？

3つの役割を担っています！

01

前方支援 地域連携室

主に紹介患者の予約、受付
紹介元への返書確認

メンバー：医事課職員 4 名

円滑に当院を受診
できるよう地域の医療機関
と連携を図っています

02

入院前支援

入院生活の説明
アナムネーゼ聴取
休薬指示の確認

メンバー：看護師 4 名

入院生活を安心して
送れるように丁寧な
対応を心掛けています

03

後方支援 退院支援

退院後の療養に対する
支援や調整

メンバー：MSW 3 名
看護師 7 名
(内 2 名病棟付け)

退院後の患者さんの
生活に目を向けて
支援していきます

TOPICS



総合支援センター
をさがせ！

総合支援センターってどこだ？

〒 山陰労災病院 - 1 階
医事課受付前廊下奥
▶▶ 医療安全管理室前



こちらですよ！

療養中の心理的・社会的問題 の解決・調整援助

病気の不安・心の問題だけでなく
児童や高齢者虐待や
DVの相談も対応してます。

01

退院援助

退院先の相談は
ダントツで多いです。

02

社会復帰援助

機構あげての事業
『治療と仕事の両立支援』
ですよね。
もっと頑張らねば！

03

医療ソーシャルワーカー (MSW) の お仕事教えます！

受診・受療援助

入院・外来問わず患者さんや
そのご家族の支援もします。
他の診療所やリハビリ先を調べて
アナウンスすることもあります。

04

経済的問題の解決・援助

医療費や生活費だけでなく
借財の相談もしばしば
ございます。

05

地域活動

行政機関や地域のネットワークに
関わる会議、意外と多いんです。
(放課後も忙しいんです;汗)

06

厚生労働省「医療ソーシャルワーカー業務指針」より

MSWのつぶやき

～仕事とはいえツライんですというリアルな業務をあげてみました～

① 家問題

身寄りのない方が多いのですが…
車中泊の方、●●屋敷にお住まい
の方等々…「どこに帰るの～」と叫
びたい(><)

② ペット問題

ひとり暮らしでペットを残し緊急
入院。患者さんも心配で不穏(涙)
お世話先探しは大変です。

③ 借金問題

入院を機に問題が包まれた大風呂
敷が広げられ手に追えない…
けど、逃げられない。
電卓片手にまずは現状把握から…

「貴重な5日間」

「ちよつと疲れちゃったみたいで、ホテル
代わりに休みに来たんですよ。」

気さくに話される方で優しい笑顔が
印象的でした。病室に伺うたびに仕事
の事・家族の事・体調の事など話され、
帰り際には必ず「また来てね。」と言っ
て頂きました。

しかし、病状は日に日に悪化し自由
に動いていた体は徐々に動けなくなり、
一人で起き上がることも難しくなっ
ていきました。毎日息子さんに電話して
いましたが声を出すこともつらくなり、
息子さんも電話がない事を心配して
いました。コロナ禍で面会制限もあり
本人も家族もどんなに不安だったこと
でしょう。

病気については本人には未告知でし
た。病棟スタッフとも話し合いある時、
残された時間が少ないとしたらどう
したいですかと尋ねると「ありがとう、
誰も病気のことを教えてくれなかった
のに、あなたが初めて話してくれた。
家に帰らせて、息子と話したいことが
ある。」

あとがき

この度は便りを読んでいただきあ
りがとうございました。不定期で
はありますが総合支援センターの
活動を発信していきます。
今後ともよろしくお願いします。

総合支援センター一同

意向確認後直ぐに訪問診療医・訪問看
護等々調整し、自宅退院する事が出来ま
した。退院後、5日で訃報の知らせが届
きました。癌という言葉は出さなかったけ
ど、状況の悪くなった彼女にかけた言葉
が本当に良かったのか、もっと早くに伝え
ればもっと時間があっただろうにと、自
らの関わり方を悔いた事例となりました。
先日、日本無二の指画家だった彼女の遺
作展があり美術館を訪れました。
【今を生きる、心で描く。】と題され息子
さんがすべてを企画されたようです。そ
こには彼女の足跡と残された素晴らしい
作品が多く展示され、今まさに作品を通
し彼女が生き続けていると感銘を受けま
した。また、息子さんにもお会い出来、
「貴重な5日間をありがとうございました。
最後は、話せなかったけど一緒にいる
ことが出来ました。」と、お言葉を頂くこ
とが出来ました。(記 退院支援担当)

